



いま 現在を生きる

NPO法人でより充実した活動を

大原裕介さん (弥生)

学生ボランティアの活動拠点、「青少年活動センターゆうゆう24」がNPO法人として活動を発進します。同センター開設時から携わっている大原裕介さんが代表を務め、北海道医療大学を卒業した学生が当別町民の一員となり充実した地域福祉を目指した活動を行っていきます。



NPO法人になると聞きました・・・

4月1日からNPO法人として活動します。

平成14年に学生ボランティアの活動拠点として「青少年活動センターゆうゆう24」が発足してから3年が経過し、NPO法人の認定を受けてより充実した活動がスタートします。今までと大きく変わるの、5人の専従スタッフが常駐することです。ここでやっている店舗や喫茶の運営、各サービスにいつでもお答えしていくことが可能になりました。これまでは学生が行っていたので、施設を留守にしていたり、電話に対応できないなど町の方に印象が良くない部分がありましたが、NPOになったことをきっかけに「ゆうゆう24」の活動を広く町民の方にも知って欲しいですね。

今までと何が変わるのでしょうか・・・

「ゆうゆう24」は、大学と地域連携の拠点、学生ボランティアの地域福祉の実践の場となることがそもそもの目的でした。これからは、「地域福祉をどう創っていくか」「健常者と障がい者の壁を無くすノーマライゼーションを実現する障がい福祉の整備体制づくり」「お年寄りやお子さんを預かるシステムづくり」など、広がりのある活動を展開できます。

障がいを持ったお子さんを一時的に預かるレスパイトサービスは、放課後の居場所作りとして3年前から始めましたが、現在そのニーズは町外近郊にまで広がっています。私たちがやる一番の強みは、知識と経験をもつ450名の学生ボランティアが、1対1でお子さんに関われるところです。これからは「外出をいっしょにする」「ナイトケア(共に宿泊をする)」など24時間のサービスをしていくことができるようになります。

また、ここで学童保育を始めたいと考えています。障がいのあるお子さんに限らず、一般のお子さんもお預かりします。これは障がいのある子との関わり、地域ボランティアとの関わりの中で、子供たちに社会性や自立性を育てていけると 생각합니다。私自身、障がいを持っている方に人生観を変えてもらいました。学生のほとんどがそんな経験をして、生きる大きな力になっています。学校だけでは学べない、やさしさや思いやりを学べる場として提供したいですね。

地域との関わりは・・・

ゆうゆう開所当時は、地域の方とどう関わっていくか模索して悩むことも多くありました。でも、学生から町の中に飛び込んでいくと、思いのほか町の方が歓迎してくれました。様々なところで応援、協力してくれました。それがなかったら、今NPOになることもなかったかもしれません。日々、この施設に足を運んでくれる方もいて、うれしい限りです。

また、町内には素晴らしい活動をしている団体もたくさんあります。ネットワークをつなげて、障がいのある人が安心して暮らせる町になるきっかけを作っていきたいと思っています。

福祉に携わっている学生は、当別を「第二の故郷」と思っています。地域の方の暖かさに触れることが、大規模な町から来ている学生にはとても新鮮です。町民の方も是非私たちの活動に参加してほしいですね。困った時には、ここのシステムを利用し、またボランティアとして参加する、支えられ支え合える共生社会になることをみんなで考えていきたいと思っています。

